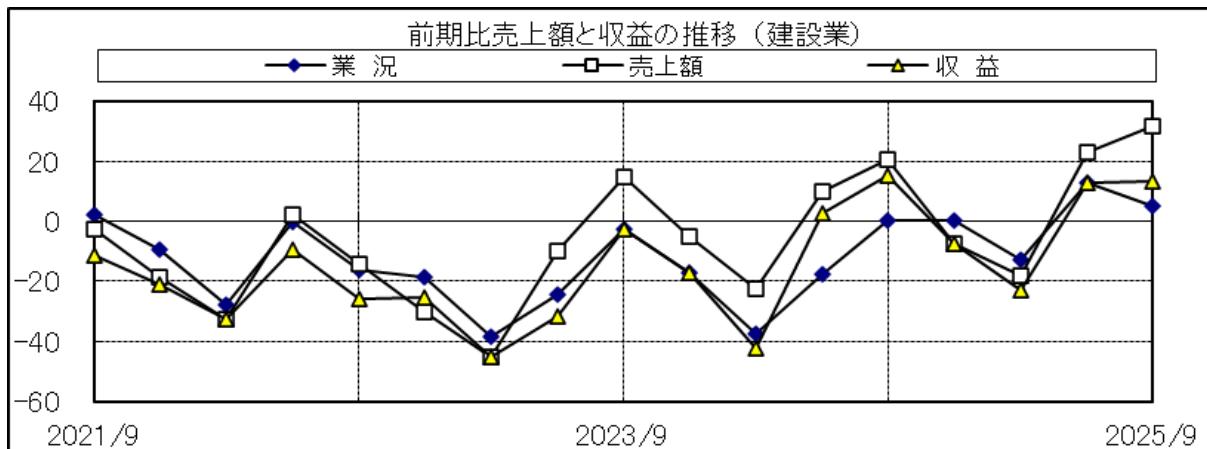


建設業 38企業 (回答率 100.00%) の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
業況	-12.8	12.8	5.3	2.6
売上額	-17.9	23.1	31.6	10.5
収益	-23.1	12.8	13.2	7.9

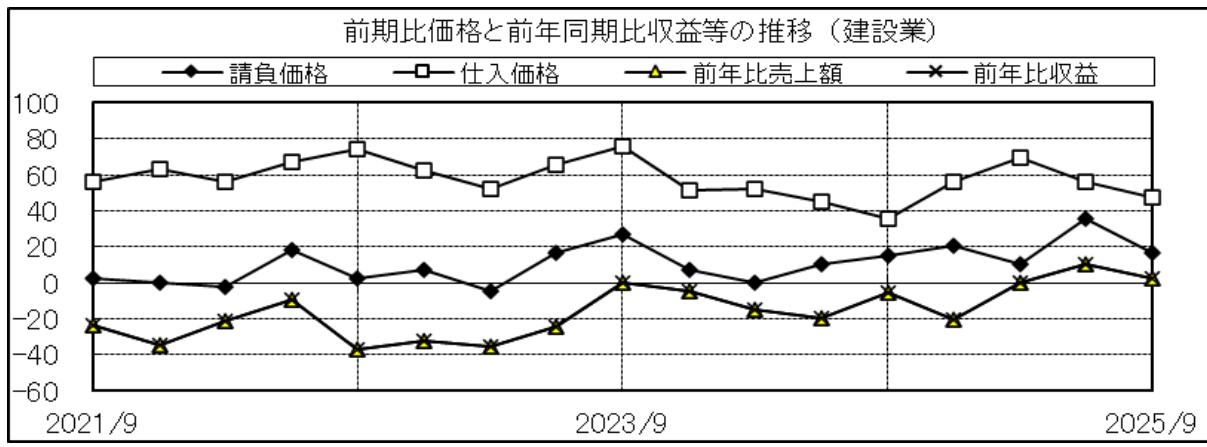
今期の業況判断 D.I. は 5.3 で、前期比 7.5 ポイント下降、前年(0.0)比で 5.3 ポイント上昇した。地区別 D.I. の水準は高い順に、様似が最も高く、次に静内、えりも、三石、浦河と続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断 D.I. は、31.6 で、前期比 8.5 ポイント上昇。収益判断 D.I. は 13.2 で、前期比 0.4 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
請負価格	12.8	35.9	26.3	10.5
仕入価格	69.2	53.8	47.4	26.3

請負価格判断 D.I. は 26.3 で、前期比 9.6 ポイント下降、前年(15.4)比で 10.9 ポイント上昇した。仕入価格判断 D.I. は 47.4 で、前期比 6.4 ポイント下降。前年(35.9)比で 11.5 ポイント上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
残業時間	-10.3	-2.6	7.9	10.5
人手状況	-46.2	-35.9	-55.3	-47.4

残業時間判断 D.I. は 7.9 で、前期比 10.5 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D.I. は △55.3 で、前期比 19.4 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

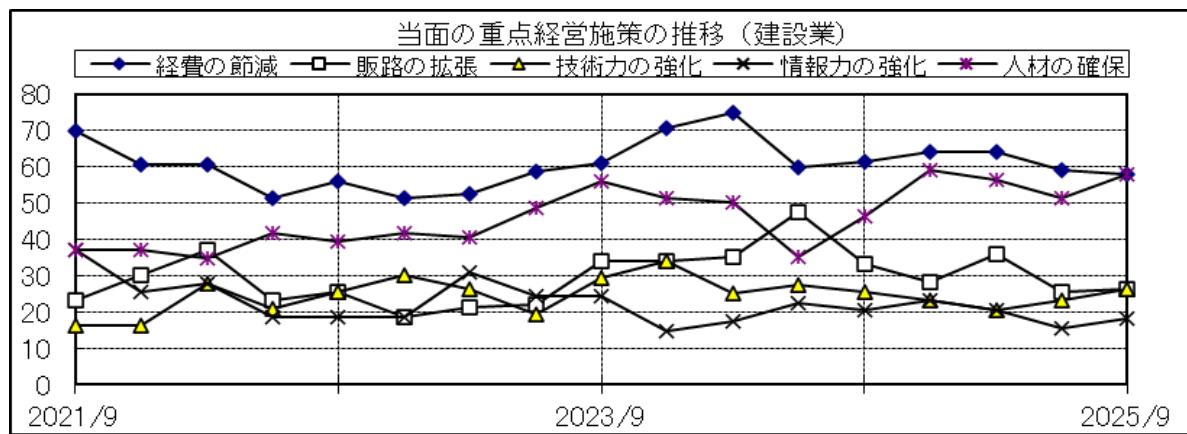
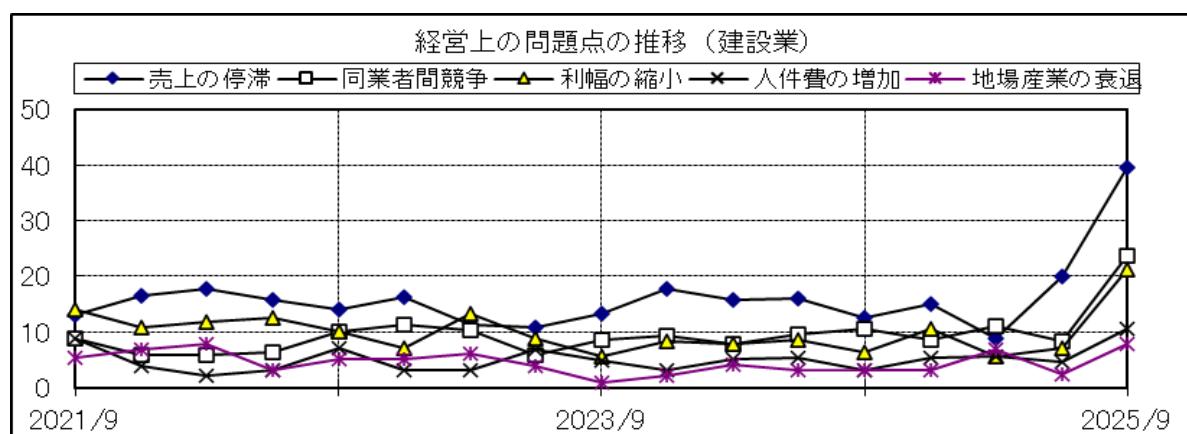
設備投資の充足感を示すD.I.は△5.3で、前期(△5.1)比0.2ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は13.2で、前期(15.4)比2.2ポイント下降した。設備投資は、前期6社に対し、5社の実施となった。来期の設備投資は、2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「人手不足」が55.3%と最も多く、次に「材料価格上昇」42.1%、「売上停滞減少」39.5%、「同業者競合」23.7%、「利幅縮小」21.1%、「下請確保難」・「人件費増加」が10.5%、「諸経費増加」・「天候不順」・「地場産業衰退」が7.9%、「大手企業競合」5.3%、「合理化不足」・「技術力不足」が2.6%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」・「人材確保」が57.9%と最も多く、次に「販路拡大」・「技術力強化」が26.3%、「情報力強化」18.4%、「労働条件改善」7.9%、「新事業開始」・「不動産有効活用」が5.3%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は2.6と、今期比2.7ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D.I.は10.5と、今期比21.1ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D.I.は7.9と、今期比5.3ポイントの下降を見通している。

予想請負価格判断D.I.は10.5と、今期比15.8ポイントの下降を見通している。

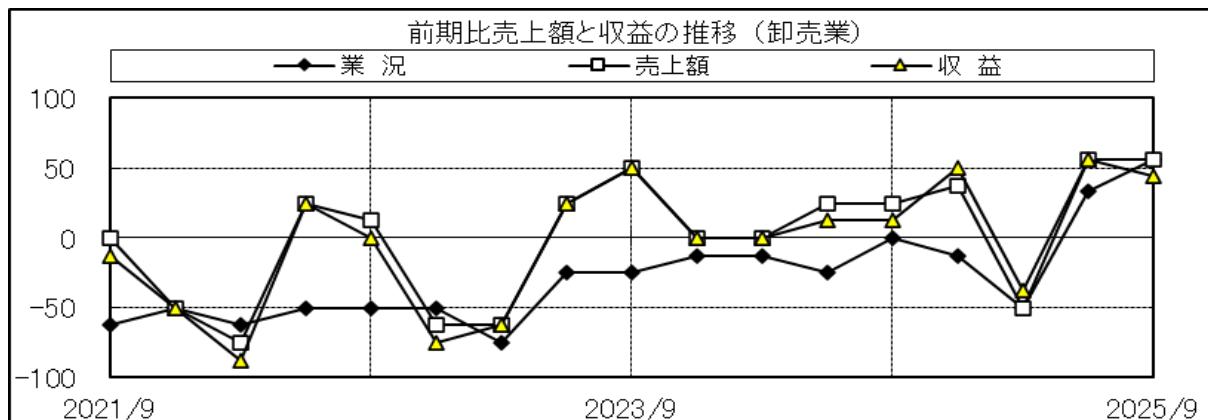
予想仕入価格判断D.I.は26.3と、今期比21.1ポイントの下降を見通している。

卸売業 9企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
業況	-50.0	33.3	55.6	11.1
売上額	-50.0	55.6	55.6	11.1
収益	-25.0	55.6	44.4	11.1

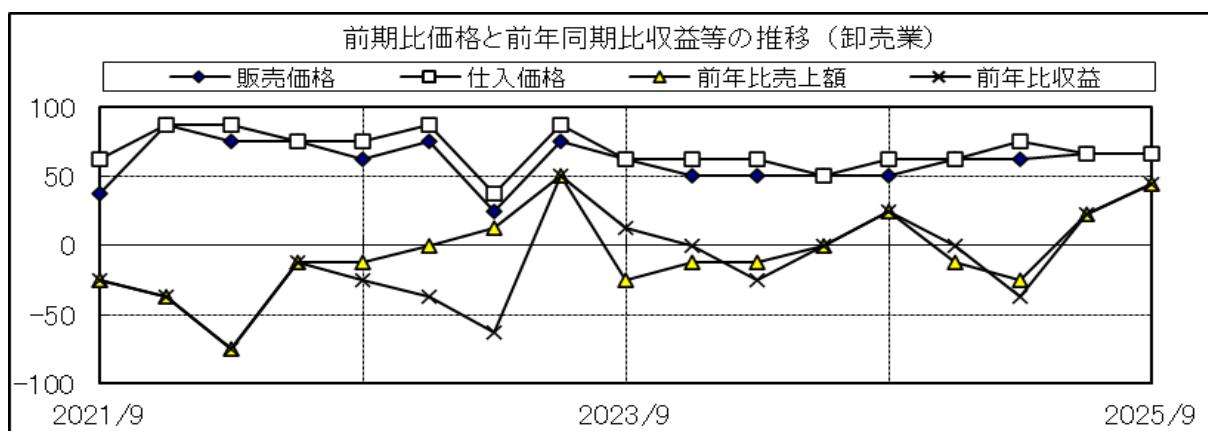
今期の業況判断 D.I. は 55.6 で、前期比 22.3 ポイント上昇、前年(0.0)比で 55.6 ポイント上昇した。地区別 D.I. の水準は、静内と様似地区は上昇、浦河・三石地区は同水準となった。売上額判断 D.I. は 55.6 で、前期と同水準となった。収益判断 D.I. は 44.4 で、前期比 11.2 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
販売価格	62.5	66.7	66.7	22.2
仕入価格	75.0	66.7	66.7	33.3

販売価格判断 D.I. は 66.7 で、前期と同水準となった。前年(50.0)比では 16.7 ポイント上昇した。仕入価格判断 D.I. は 66.7 で、前期と同水準となった。前年(62.5)比では 4.2 ポイント上昇した。業種別では、水産業、食品業の販売価格、仕入価格はともに横這いとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
残業時間	0.0	22.2	11.1	11.1
人手状況	-12.5	-11.1	-22.2	-22.2

残業時間判断 D.I. は 11.1 で、前期比 11.1 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D.I. は △22.2 で、前期比 11.1 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

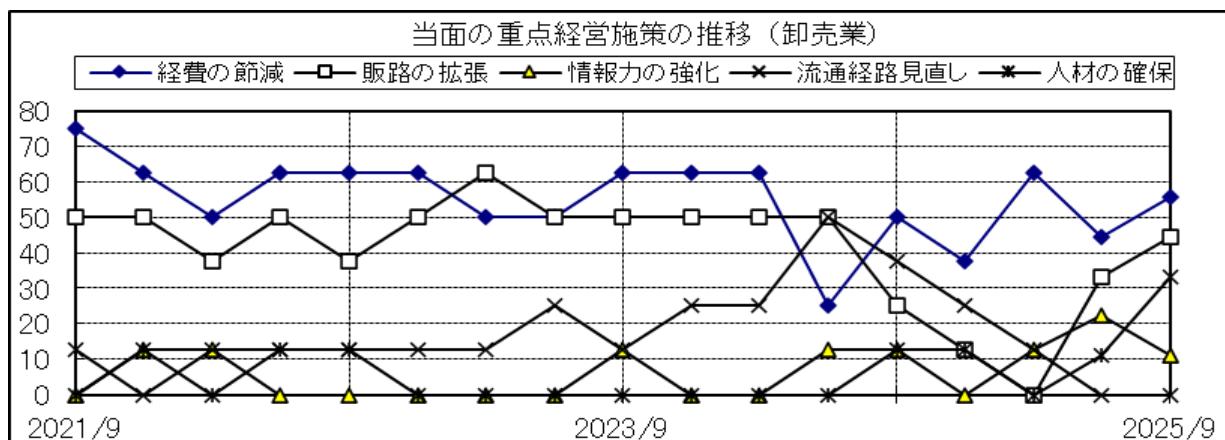
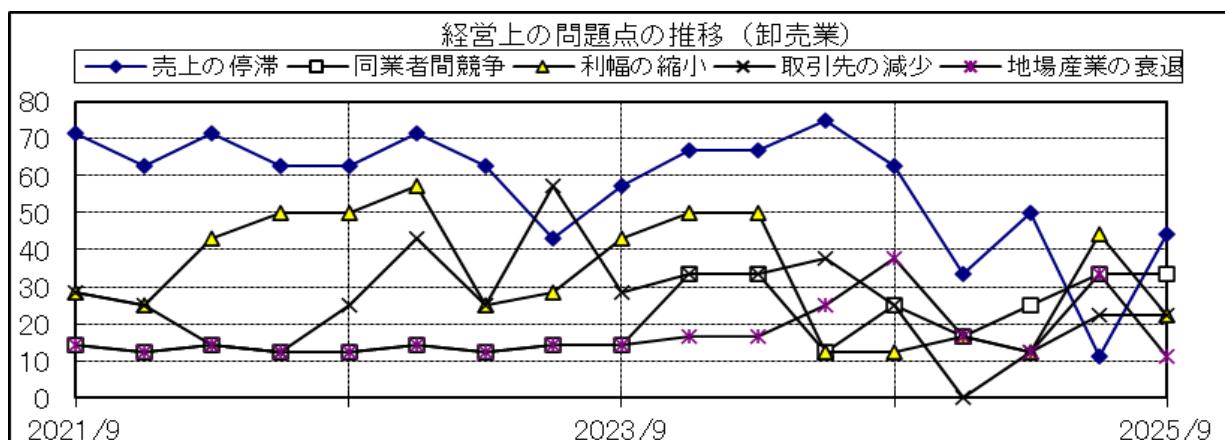
設備投資の充足感を示す D. I. は△22.2 で、前期(△22.2)と同水準となった。

設備実施企業割合は 33.3 で、前期(0.0)比 33.3 ポイント上昇した。設備投資は、前期 0 社に対し、3 社の実施となった。来期の設備投資は、4 社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が 44.4% と最も多く、次に「同業者競合」33.3%、「人手不足」・「利幅縮小」・「人件費増加」・「取引先減少」が 22.2%、「値上要請」・「諸経費増加」・「店舗老朽化」・「地場産業衰退」・「為替レート変動」が 11.1% となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が 55.6% と最も多く、次に「販路拡大」44.4%、「人材確保」33.3%、「情報力強化」・「新事業開始」・「労働条件改善」が 11.1% となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断 D. I. は 11.1 と、今期比 44.5 ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断 D. I. は 11.1 と、今期比 44.5 ポイントの下降を見通している。

予想収益判断 D. I. は 11.1 と、今期比 33.3 ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断 D. I. は 22.2 と、今期比 44.5 ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断 D. I. は 33.3 と、今期比 33.4 ポイントの下降を見通している。